

第2回 足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会

◎第2回足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会が平成19年8月9日に福井厚生年金会館にて開催されました。

足羽川ダム工事事務所長挨拶



足羽川ダム工事事務所 岩崎福久所長の挨拶

委員長挨拶



福原輝幸委員長による挨拶

委員紹介



第2回足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会は、水環境、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、陸産貝類、魚類、陸上昆虫類、底生動物、植物、付着藻類、生態系、河川物理環境を担当分野とされる11人の委員で検討されました。

第2回足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会出席委員

担当分野	氏 名		現 職 等
水 環 境	奥村 充司	おくむら みつし	福井工業高等専門学校環境都市工学科 准教授
	福原 輝幸	ふくはら てるゆき	福井大学大学院工学研究科 教授
哺 乳 類	西垣 正男	にしがき まさお	福井県自然保護センター 企画主査
鳥 類	林 武雄	はやし たけお	日本鳥類保護連盟 理事
爬 虫 類 両 生 類 陸 産 貝 類	長谷川 巖	はせがわ いわお	福井県両生爬虫類研究会 会長
魚 類 生 態 系	加藤 文男	かとう ふみお	元仁愛女子短期大学 教授
陸上昆虫類	下野谷 豊一	しものや とよかず	日本鱗翅学会 会員
底生動物	前田 正紀	まえだ まさのり	仁愛女子短期大学 准教授
植 物 生 態 系	渡辺 定路	わたなべ さだみち	元福井市自然史博物館 館長
付着藻類	安達 誘	あだち さそひ	福井陸水生物研究会 会員
河川物理環境	角 哲也	すみ てつや	京都大学大学院工学研究科 准教授

第2回足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会での審議骨子

I. 事務局からの報告

事務局より以下の事項が報告されました。

- ・これまでの委員会等での意見と対応
- ・方法書の記載内容について
- ・今後の予定

事務局からの報告に対する委員からの意見及び事務局回答は以下のとおりです。

指摘事項	指摘内容	事務局回答
これまでの委員会等での意見と対応	<ul style="list-style-type: none"> ・底生動物については、種だけでなく群としての生息状況を押さえておくという観点が必要ではないか。 	群としての生息状況は生態系の典型性の観点からハビタットの分類などから整理していく。
方法書の記載内容について	<ul style="list-style-type: none"> ・工事用車両の量などの情報は事前に沿道の住民に伝わるのか。 	事業計画も含め、工事に関する案内は適切にアナウンスしていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ダムサイトの樹木の伐採により、草地が出現し、ニホンジカの増加が懸念される。ニホンジカとカモシカは競合関係にあり、カモシカの保護の観点からもニホンジカの調査が必要ではないか。 	哺乳類相調査等において生息状況の把握に努めている。生態系への影響については典型性の観点から予測、評価を行う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・生態系の典型性の調査で、昆虫類は任意採集を実施しなくてよいのか。 	生態系の調査では、この地域の生態系がどのように類型区分されるのか確認するための調査として、定量的な手法を用いている。なお、相調査及び重要な種の調査では任意採集を行っている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・各項目の調査、予測、評価は重要であるが、項目間の関連も重要である。水質の変化および河床材料の変化が生態系に与える影響など、各項目間の関連も重要である 	水質等の変化については、直接改変以外の間接的な影響として、動物・植物・生態系に与える影響の予測、評価を行う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・山間部の樹林地に道路を作ることによる部分的な日照の変化が動植物に与える影響については考える必要はないか。 	改変部付近の環境の変化として、日照等の変化についても予測・評価を行う。